

氏名	片岡 優華
所属	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 看護科学域
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	健博 第276号
学位授与の日付	令和6年3月25日
課程・論文の別	学位規則第4条第2項該当
学位論文題名	育児期の親のエンパワメント尺度の開発
論文審査委員	主査 安達 久美子 委員 河原 加代子 委員 習田 明裕

【論文の内容の要旨】

I. 目的

近年の子育て支援は、一般層への育てる力（セルフケア能力）の維持・向上、問題発生予防が掲げられ、親自身のエンパワメントに焦点を当てることが重要である。本研究では一般層を対象とした育児期の親のエンパワメント尺度を開発し、信頼性・妥当性を検討することを目的とした。

II. 方法

第1段階：概念分析と母親・父親のインタビュー結果を統合し、尺度原案を作成した。

第2段階：首都圏に住む有効回答の親158名について、項目分析、探索的因子分析、内容妥当性を検討し尺度暫定版を作成した。

第3段階：首都圏を中心に、0～3歳の子を持つ親、計1690世帯（3380名）へ質問紙を配布した。調査内容は①基本属性、②育児期の親のエンパワメント尺度（以下PESとする）暫定版、③Family Empowerment Scale(FES)日本語版とし、信頼性・妥当性について分析した。本研究は、創価大学人を対象とする研究倫理委員会（29095, 30082）の承認を得た。

III. 結果

第1段階：概念分析とインタビュー調査より、6因子60項目を尺度原案とした。

第2段階：項目分析、探索的因子分析、内容妥当性を検討した結果、6因子41項目の尺度暫定版を作成した。

第3段階：回答の得られた670名（回収率19.8%）のうち、有効回答の得られた母親395名、父親218名、計613名（有効回答率91.4%）を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析等の結果、【自分らしく生きる力】、【仲間・地域と支え合う力】、【自分らしく育児する力】、【家族と支え合う力】の4因子、24項目が開発された。確認的因子分析によるモデ

ルの適合度は、RMSEA=0.070, GFI=0.880, AGFI=0.855, CFI=0.891, AIC=1739.1, PSE 総得点と FES 日本語版総得点の相関は 0.596 であった。PSE 全体の Cronbach's α 係数は 0.920, 再テスト法の相関は PSE 全体では 0.868 であった。

IV. 結論

本尺度は、概念分析・インタビューをもとに作成され、【自分らしく生きる力】、【自分らしく育児する力】、【家族と支え合う力】、【仲間・地域と支え合う力】の4つの下位尺度、24項目から成り、一定の信頼性・妥当性を有した。本尺度開発により【自分らしく生きる力】、【自分らしく育児する力】を可視化することが可能となった点は、新規性といえる。また、本尺度は4つの視点から測定するアセスメントツール等、0～3歳の子を育児する一般層の親を対象とする育児支援に活用できることが示唆された。